や ぶ な べ

青森県立青森高等学校生物部 発行

誌　　　名	や ぶ な べ
号/発行年/頁	20 / 1975 / 80-88
タ イ ト ル	稲山の蝶相
著　者　名	三橋渡

自然を見つめる やぶなべ会（青森）

稲山の蝶相　三橋 渡

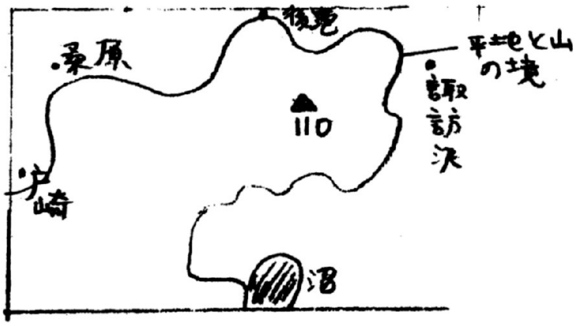
青森市は、本県においては最もチョウの分布が調査された地域と言えよう。その最も著るしい地域は、古くは浪館〜高田あたりや、八甲田，そして新しくは合子沢などであろう。それでも，部分的に見ると意外に知られていない地域もある。その一つが、稲山付近であり，また特に蓬田から油川にかけての広い地域は，ほとんど知られていないようである。今後、この方面も公にされることを期待する。

さて、分布調査において，たとえば稲山とか野内とか，小地域に分割してそれぞれの蝶相を発表することはあまりにも微視的ではないだろうか。つまり分布というものは，特別な場合を除いて、青森市東部とか，八甲田とか，大きく区分する方が，蝶相の特色などもはっきりするのではないだろうか。だから、今回執筆するにあたって一つのためらいがあるわけである。しかし，ここではあまり気にせずに、まとめてみたい。

元来，稲山の区分はそれほど厳密ではない。そこで筆者も通例「稲山」と呼ばれている地域を対象とした。（図Ⅰ）部落でいえば、戸崎，桑原，後潟，諏訪沢が含まれることになろう。

※「稲山の動植物相」　木本では、アカマツ，スギの針葉樹林と広葉樹から成る雑木林が見られる。前者は，人の手によるところが大であろう。雑木林もブナが見られないところから、「青森県植物誌」(東奥日報社)によると、過去に伐採が行なわれたことに成る。動植相としてそれほど特筆するこ

とけないであろうか。また草原が比較的見られるが，ススキなどの生育する乾性のものが大部分で，沼のまわりにわずかに湿性のものがある。
※動物相とは、蝶を除く。



蝶目録

今まで ~~65~~ 67 種記録している。
なお、記録者名のないものは筆者記録のもの。

Ⅰ セセリチョウ科

ミヤマセセリ	1972－5－7	5
	1971－5－16	2♂♂
ダイミョウセセリ	1970－7－29	
キバネセセリ	1971－7－10	1♂

県内において，比較的分布が限られる。

ギンイチモンジセセリ	1972－6－11	2
	1971－6－27	2
キマダラセセリ	1972－7－15	1
コキマダラセセリ	1971－7－10	1♂
コチャバネセセリ	1972－6－11	1
	1971－6－27	1♀
	1971－8－7	1
オオチャバネセセリ	1974－10－	3
イチモンジセセリ	1974－10－	2

Ⅱ アゲハチョウ科

ウスバシロチョウ	1971-6-3	1♂
	1970-6-6	4
	1970-6-14	3
	1969-6-22	1♂1♀

桑原に多いようである。

アゲハチョウ	1973-7-23	1目撃
キアゲハ	1971-6-8	1L. (2ないし3令)
カラスアゲハ	1968-9-5(?)	1♂

Ⅲ シロチョウ科

スジボソヤマキチョウ	1972-7-15	1♂1♀
	1970-7-25	2♂♂1♀
	1971-7-27	1♂
	1968-9-初旬	1♀
ツマキチョウ	1972-5-7	1♂
	1971-5-16	2♂♂
モンキチョウ	1971-6-27	1
スジグロチョウ	1972-5-7	1♂
エゾスジグロチョウ	1972-5-7	1♂
ヒメシロチョウ	1972-4-29	1
	1973-5-5	1
	1971-7-10	1♀
モンシロチョウ	1971-6-27	1

Ⅳ タテハチョウ科

コムラサキ	1972-7-15	1♂
	1970-7-25	1♂

ゴマダラチョウ　　　1970-7-25　1目撃

中腹より上の方で目撃した。

オオムラサキ　　　1972-8-6　1♀

石沢尚史

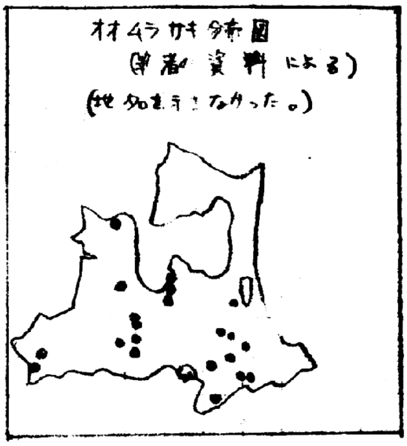
最近、筆者たち生物部員は、オオムラサキの発生を確認した。そのいきさつを述べてみたい。筆者が稲山とオオムラサキの関連を初めて耳にしたのは、およそ三年ほど前の東高祭であった。生物部の標本の中の、一頭のオスのオオムラサキを稲山の頂上で採ったと、生物部員は述べていた。ただしその標本にはラベルはついていなかった。やがて筆者が高校二年生の春、生物部に新入生の石沢尚史君が入部し、オオムラサキを稲山で採っているというのである。さらに彼の友だちも採っているということで、もはや稲山におけるオオムラサキの発生は確実なものとなった。一方、筆者と石沢君は、'73年7月23日稲山におもむき、頂上でオオムラサキの出没をねらった。そして、滑走する大型のチョウをほんの瞬間見たが、それはおそらくオオムラサキであった。翌年春には生物部員が稲山付近(詳しく言うと尹崎付近。普通わたしたちがオオムラサキを見る所とはやや離れている。)で、幼虫を採集した。

一方、稲山が産地として明らかにされる前までは、青森市では、浅虫(湯ノ島・谷地山)、野内(※)が知られている。

※一般にはまだ知られていない。

採集例　1971-7-25　1♂　筆者

イチモンジチョウ　　　1970-7-25　1



イチモンジ類に気をつけているが、アサマイチモンジは発見していない。アサマイチモンジはイチモンジより多少山地性である。

コミスジ
1970－8－3　1

オオミスジ
1972－7－15　1
1970－7－29　1♂

サカハチチョウ　1972－5－7　1
1970－7－29　1

キタテハ　1970－6－14　1

シータテハ　1972－8－29　1

アカタテハ　1971－6－27

ヒメアカタテハ　1971－9－18　1

ヒオドシチョウ　1973－5－5　1

クジャクチョウ　1971－7－10　1

ルリタテハ　1973－7－23　1目撃

ウラギンヒョウモン　1970－6－14　1♂
1971－6－27　1♂

上記6月14日の記録は本県としては、早い記録である

ウラギンスジヒョウモン　1972－7－15　1♂
1971－8－7　1♂

オオウラギンスジヒョウモン	1970-7-25	2♂♂
	1970-7-29	1♀
ミドリヒョウモン	1973-7-23	1♂ 石沢向史
ヒョウモンチョウ	1972-7-15	4
	1971-7-27	2
	1971-8-7	2

分布は全国的に限られるが、青森県は発生地が比較的多い、柏山の南側の沼付近に見られる。

Ⅴシジミチョウ科

ウラゴマダラシジミ	1972-7-15	1♀

青森県では東南部に比較的多いが、津軽地方では少ないものである。

オナガシジミ	1970-7-29	1
	1970-8-3	3
ミズイロオナガシジミ	1970-7-25	1
	1970-7-29	2
ウスイロオナガシジミ	1972-7-15	2
アカシジミ	1971-7-10	2
	1970-7-25	1
ウラナミアカシジミ	1971-7-10	1♀
	1972-7-15	1♀
	1971-7-27	1♂
	1970-7-29	1♀
ウラミスジシジミ	1971-7-10	1

ミドリシジミ	1972-7-15	3♂♂1♀
	1971-7-27	2♂♂1♀
	1971-8-7	1♀
メスアカミドリシジミ	1972-7-15	1♂
	1973-7-23	3♂♂
オオミドリシジミ	1971-7-10	1♀
ジョウザンミドリシジミ	1971-7-27	1♀
	1972-8-1	1♀
ハヤシミドリシジミ	1972-7-15	1♀
エゾミドリシジミ	1971-7-10	1♂
	1971-7-27	1♂

ウラジロミドリシジミ

1973-7-27　1♂　石沢尚史

稲山にはカシワがきわめて少ないので、本種も個体数が少ない。

ミヤマカラスシジミ	1973-7-23	1
	1968-9-13(?)	1

稲山には、本種は、かなり少ないと思われる。

コツバメ	1972-5-7	2♂♂
	1971-5-16	2♂♂
トラフシジミ	1972-5-7	1
	1971-6-27	1
ツバメシジミ	1970-7-29	1♀ 内山秀樹
ルリシジミ	1972-4-29	目撃

スギタニルリシジミ　1972－4－29　1♀

阿部東・室谷洋司(1962)※によると、青森市の産地として滝沢のみがあげられている。しかし、青高生物部には、「築木館」のラベルのある1♀があり、さらに筆者は椛山で記録できた。今のところ、産地は三ケ所のようである。椛山は滝沢とは違い、トチノキがきわめて少なく、そのうちの一本の大木に目をつけておいて、'72 4月29日行ったところ、採集できた。しかし、午後でしかも強風であったためか1♀の採集に終った。

ゴマシジミ　1972－8－　1
　1971－8－28　1♀

発生地はごく狭い地域で、個体数も少ない。本県での本種の食草はナガボノシロワレモコウで、ヒョウモンチョウと同じであるところから、ヒョウモンチョウを採集した地域に探索に行ったところ、発見できた。('71 8月28日)

ベニシジミ　1972－4－29　目撃

ゴイシシジミ　1971－6－27　1

Ⅵ ジャノメチョウ科

クロヒカゲ　1972－6－11　1
　1970－6－14　1♂

サトキマダラヒカゲ　1972－8－1　1♂

ジャノメチョウ　草原に多産する。

ヒメジャノメ　1964－6－8　1

ヒメウラナミジャノメ　1971－6－27　1

今回は、稲山の蝶目録を目的としたものであるが、この蝶相で多少気のつくことを簡単に述べてみる。その地理的位置から当然かもしれないが、滝沢など、八甲田山中（高地を除く）に多い山地性の種も割に見られるということである。これらは、同じように低山・平地に属する高田などの西部低山地にはほとんど見られないのである。すなわち、キバネセセリ、ウスバシロ（実際は八甲田山中にはそう多くないが、元来寒地山地性）、ウスイロオナガ、ジョウザンミドリ、エゾミドリ、スギタニルリなどである。一方、八甲田には少く、西部低山地などに多い、ギンイチモンジ、ゴマ、ヒョウモンチョウ、ヤウラジロミドリ、ハヤシミドリの比較的低地性の珍らしい種も見られる。その他、オオムラサキが見られる点も注目に値する。

以上の点から稲山は、注目に値する地域ではないかと思う。

今後記録されそうな種

チャマダラセセリ、アイノミドリシジミ、ムモンアカシジミ、メスグロヒョウモン、オオヒカゲ、ヤマキマダラヒカゲ

参考文献

室谷洋司　阿部東（1962）青森県の蝶類　青森蝶同好会
室谷洋司（1957）青森の蝶　自刊
（1972）「ケルクス」6号　青森県昆虫同好会
森一彦　（1974）青森県における国蝶オオムラサキの生活史　昆虫と自然　Vol.9 No.11